

学校だよりNO25

令和3年10月8日

児童数 473人

薫っ子

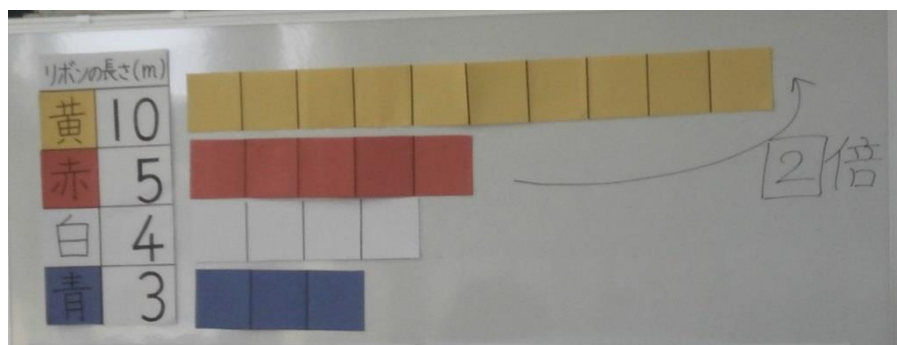


文責 校長 古川 次男

続々と 互見授業で 授業力アップ

9月に入ってから、互見授業が次々とおこなわれています。特にタブレット等のICTを活用した互見授業が多く行われています。

授業の後半に練習問題に取り組んで、その出来具合を確認するときには、瞬時に学級の理解度が分かるので、教師としては児童の実態をつかみやすく大変便利です。また、学習したことを生かして、問題作りに取り組む学級も見られます。お互いの授業を見ることを通して、より良い指導方法が学校全体に広がっています。



左の写真は、10月4日の5年3組での互見授業時の問題提示の場面です。

リボンの長さを実感としてとらえやすいように、視覚的な工夫がされています。

黄：10m、赤：5m、白：4m、青：3mと一目で分

かるようになっていきます。5年生では、

【白のリボンは、赤のリボンの何倍の長さでしょうか？】

という問題で学習を進めました。短いほうが何倍と聞かれるほど、答えにくいことはないでしょう。なので、低学年で学習したこと「赤の何倍かが黄」($5 \times \square = 10$)を生かして、下にあるような文字式にしてみたのが、5年3組の解決方法でした。

① $5 \times \square = 4$

② $\square = 4 \div 5$

③ $\square = 4 / 5$

①については、ほぼ全員が理解できていたようです。

②については、左辺を $5 \div 5 \times \square = 1 \times \square = \square$ とするために、両辺に $\div 5$ をするので、右辺は $4 \div 5$ となります。ここまでは、「式にする、①を立式する、②両辺を $\div 5$ する」と3段階の手続きが必要になります。

さらに、「③ $4 \div 5$ を小数の0.8ではなく分数の $4/5$ とする」と、ここでも2手間ぐらいあります。合計5段階の思考をしないと、正答にたどりつけないのです。

算数・数学は、特に積み上げが大事な学習です。1学年1学年で学習してきたことをきちんと身に付けていないと、新しい学年の問題を解決できないようになっていきます。

私自身も、いつから算数・数学が苦手になったかはよく覚えていませんが、とにかく苦手意識があります。(小・中学生の頃までは、比較的得意教科にしていたのですが…。)

子どもたちも同じことだろうと思います。いつできなくなったのかは分からないが、とにかくできないということが算数の苦手な子の気持ちなのだろうと思います。そのような苦手意識を、また、得意な教科にしてくれる先生がいたなら、何て素晴らしい先生なのだろうと思います。そんな先生をめざして、互見授業を継続しています。